

発掘現場 通信 拡大版

平泉寺で 数珠をつくっていた！

平泉寺はお寺ですので、お坊さんがたくさんいたことでしょう。お坊さんといえば、数珠を肌身はなさず持っているというイメージがあります。今回の調査では、数珠を持っているだけでなく、だれかがお坊さんの屋敷の中でつくっていたようです。

「いったいだれが？」という謎が残っています。とはいうものの、数珠をつくる「技術」を持つ人がいたことがわかったことは、きわめて珍しいといえるでしょう。

◆ きっかけは「石」でした…

門と土塀跡を復元する予定地で、今年度発掘調査を行ってまいりました。その結果、土塀の規模などが明らかになりましたが、さらに調べていくと、たいへん珍しいものが出土したのです。それが右写真の遺物です。これは石なんですが…



◆ たくさんの溝が…

この石は、粘板岩ねんばんがんという石です。よく見ると、いくつも溝のようなくぼみがあります。自然にはここまでくぼまないでしょう。ということは、だれか人間がくぼませたということです。



◆ みがいて、みがいて…玉づくり

このようなくぼみがある石は、水晶をみがいて玉をつくる砥石といしだと考えられています。

調査地からは、この砥石だけでなく、左の写真のような水晶片や玉をつくる時の細かいくずじゆずが50点以上出土しています。このことから、調査地では数珠がつけられていたことがわかります。

◆ いっただれが？

数珠がつけられたのは、戦国時代の初め(今から550年ほど前)です。数珠づくりはだれでもできるものではないため、調査した屋敷地には高い技術をもった「職人しよくにん」のような人がいたようです。しかし、その実態はよくわかっていません。これから謎解きが始まります。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No.18 (2010年3月号)

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成22年3月25日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話:0779-88-8113(直通)

メール:shiseki@city.katsuyama.lg.jp

世界遺産へ 向けて 拡大版

勝山市 世界遺産講演会2010 が開かれました！

尾口のでくまわしの上演。脇田晴子氏の講演。3月20日の勝山市教育会館ホールにて、市内外190名の方たちは、白山麓の歴史と文化を堪能されました。同じく、勝山市教育会館の1階ロビーでは、「平泉寺発掘・整備の最前線」展を開催し、平泉寺の発掘調査で出土した遺物や写真を展示しました。今月は、その時の様子をお伝えしたいと思います。

講演の内容

「勝山の歴史と文化」

脇田晴子氏(石川県立歴史博物館館長)

◆ 山の神は女神であった…

山の神は女性の神が多いです。白山、富士山などですね。明治時代以降、女性差別が強まるにつれて男の神が増えていったのではないのでしょうか。女性の歴史を語る上でも、山の神の研究は重要です。

◆ 世界の宗教都市と大学町との関係

イギリスのオックスフォード大学やケンブリッジ大学は、宗教都市が基礎となっています。平泉寺などの日本の宗教都市も、世界的な視点からの研究が必要でしょう。

◆ 越前地域の芸能

子どもの時から能を演じてきて驚くことは、能面が平泉寺から出たという出目家のものを基準としていることです。

能楽と越前の密接な関係も記録に残っていることから、この地域に芸能が豊かに伝わっていることもうなづけます。



今年のテーマは、「白山の世界遺産登録に向けて…」



上演

「尾口のでくまわし」

国指定重要無形民俗文化財



◆ はじまりーなぜ尾口村にあるの？ー

「尾口のでくまわし」は、石川県旧尾口村(現白山市)東二口と深瀬に伝わる人形浄瑠璃です。今から350年ほど前、江戸時代の初めごろ、東二口集落の若者が、京都や大坂に出向き、当時流行していた人形浄瑠璃を習い覚えて、村に持ち帰りました。そして、農閑期の娯楽として、または、旧正月を祝う催し物として、今日まで伝わってきました。

◆ 古い語り口

有名な人形浄瑠璃「文楽」は、江戸時代中ごろに竹本義太夫が大成した「義太夫節」で演じられます。「尾口のでくまわし」で演じられる「文弥節」は、「義太夫節」より古い語り方であると考えられています。



舞台裏です。「尾口のでくまわし」は、今から350年ほど前の浄瑠璃の語り手(=太夫)である岡本文弥が演じた「文弥節」を使って演じられます。その節は「泣き節」といわれ、なにかもの悲しい調子を帯びています。

◆ 全国で4つだけ！

「文弥節」を語る人形浄瑠璃は、白山市、新潟県佐渡市・宮崎県都城市・鹿児島県薩摩川内市のもののみです。

◆ どんなものを演じているの？

江戸時代の最盛期には、40以上の演目がありました。現在は「源氏烏帽子折」、「門出屋嶋」、「出世景清」、「大職冠」、「姫山姥」、「酒呑童子」の6演目が東二口文弥人形浄瑠璃保存会によって演じられています。

◆ 「大職冠」のあらすじ

大職冠というのは、大化の改新を行った藤原(中臣)鎌足の官職のことです。初段から五段に分かれた長いお話しで、今回は二段までを演じてもらいました。



唐の万公將軍運宗、いざ日本へ！



迫力満点！
運宗と竜宮一の武將摩醯首羅王との死闘！

藤原鎌足の娘「琥珀女」は、唐(中国)の三代皇帝である高宗の後となっていました。その唐から、藤原氏の寺、大和の興福寺に3つの宝が送られることとなり、唐の万公將軍運宗が使者として日本へ向かいます。

お話しは、道中でおきる龍王との宝の奪い合いへと展開していきます。

◆ 宝物のゆくえは？

美女から大蛇へ変身するシーンは、迫力があり、圧倒されます。そして、龍王に宝物をうばわれた運宗のくやしさも伝わってきます。

定期公演は、毎年2月第2・第3の土・日曜に行われています。このあと運宗の運命やいかに！つづきはぜひそちらで…。



美女が運宗を…誘惑中！
なにやらあやしげな…？



美女にせがまれ、宝物のひとつ「面向不背の玉」をみせたたん…美女はあっという間に大蛇となって、玉を持ったまま海中へ消えてしまった…美女は龍女だったのです。

ロビー展示
「平泉寺発掘整備の最前線」



講演会会場前のロビーで、平泉寺の発掘調査と整備をわかりやすく解説した展示を行いました。



新年度から建設予定をしている平泉寺ガイダンスの模型を展示しました。



今回は、中世平泉寺でのくらしがわかるもののほかに、専門的な技術を持った職人が使ったと思われる道具なども展示しました。